

栃木県 大学地域連携活動 支援事業 成果報告

シティライフ学部三浦ゼミでは、2025年度の「栃木県大学地域連携活動支援事業」として、「景観遺産の継承に向けた『県産材再利用アーカイブ化』プロジェクト」に取り組みました。本事業は2025年10月24日（金）の中間報告会を経て、2026年2月6日（金）には栃木県庁にて1年間の成果報告を行いました。シティライフ学部3年の佐藤琉乃葉さんが代表者を務め、成果報告会では佐藤さんと菊地悠統さんが発表を担当しました。

本プロジェクトでは、県産材、とりわけ大谷石の古材に着目し、その再利用の実態や可能性を調査・記録するとともに、再利用を支える仕組みや需要喚起のあり方を検討してきました。活動内容としては、「宇都宮短期大学附属高校に設置された大谷石古材ベンチの視察と事業者ヒアリング」、「古材に関するワークショップの実践やピザ窯としての活用実践を通じた知見の整理」、「共和大学クリスマスマーケットにおける学外発表」などを実施しました。

2月の成果報告会では、大谷石を実際に使う立場から、再利用を担う側の声をさらに聴き取り、デザイナーや建築家といった活用主体にも働きかけていくことの重要性が示されました。また、「古材再利用には解体・運搬・保管といった古材特有のコストがかかる一方で、それらに対応できる事業者が栃木県内に残っていることは地域の強みであり、今後の展開に期待したい」との講評も得られ、励ましのお言葉もいただきました。

このように、本事業を通じて、県産材再利用は単なる資源循環の問題ではなく、地域の記憶や景観遺産の継承に関わる実践であることが改めて明らかになりました。また、学生にとっても、地域団体や事業者との連携、現地調査、運営、発表を通じて、実践的な学びを得る貴重な機会となりました。今後は、成果報告会で示された指摘もふまえながら、既存の流通経路や担い手の把握をさらに進めるとともに、記録項目の標準化やアーカイブの整備を通じて、地域内循環の実装に向けた取組へとつなげていくことが期待されます。



写真1 成果報告会の様子

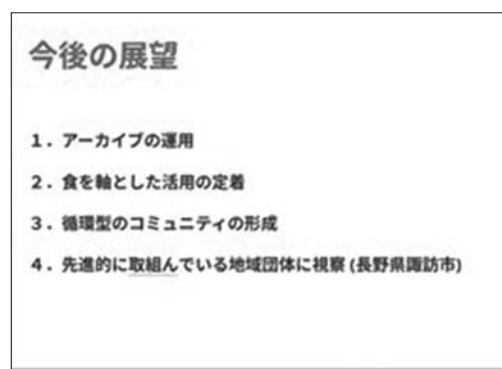


図1 成果報告会のスライドの一部